活動の内容や手順、関わる情報を一覧化する場合

活動内容を改めて確認し見直すことで、より一層住民ニーズを踏まえた活動に近づきます。一覧は引き継ぎ書になり、活動の継承にも役立ちます。

目的

何のために行っている活動か、達成する目標は何かを明記。携わるメンバー全員で共有しましょう。

協力者・協力団体

この事業の協力者や団体を明記。他の活動でも生かせる能性あり。

参加者からの感想や意見

ニーズ把握や活動の質を向上させるヒントになります。

人材の発掘

何かスキルをお持ちの方、活動の参加者などを記入。まめに声をかけ関係性を育みましょう。

活動評価シートを活用

実施までの作業手順

作業や段取りを明記。自主的に動きやすくなります。

評価と申し送り事項

実施後に自己評価しましょう。次に引き継ぎ、生かすことでマンネリ化を防ぎ、活動の質を高めます。

坂井輪中学校区まちづくり協議会

活動実績評価シート

記入日：　令和2年1月18日

活動名	防災訓練		担当部会	坂井輪連合自主防災会 防火・防災部	
目的	・防災意識の啓発 ・実際の避難や救助、避難所運営が円滑に行われるよう、訓練において課題を洗い出す				
実施内容	地区内の小中学校3つに分かれ、避難所運営の訓練を個別に実施する（別紙チラシ参照）。				
実施期間と開催日	(実施期間)9月～10月 令和元年10月20日(日)9:30～12:00		実施場所	坂井輪中学校・坂井東小学校・新通小学校の各体育館	
対象者	坂井輪中学校区の各自治会、町内会		参加人数	約800名	
かけている時間	約[illegible]	運営に関わる人数 約20名	事業費	0円	
協力者・協力団体	協力者名・団体名		連絡先		
	(訓練指導) 新潟市西消防署・新潟市防災士の会西区支部		—		
実施までの作業手順（事後も含む）	※準備やまとめなどをスケジュール形式で記入 ・防火部員を中心に、避難所別の内容を決定(約1カ月前) ・各学校単位で自治会長等役員会で説明会を開催(受付担当決定) ・案内チラシの作成、配布準備 ・当日必要となる機材を準備 ・各自治会へ案内チラシを全戸配布し、参加人数を把握 ・当日お手伝いいただく防災士の方々に派遣依頼し、各避難所へ割り振る ・当日の運営準備(段取り確認、道具類の準備) ・実施後の片付け、反省会				
成果（目的達成度）	・約800名の住民が参加し、半日をかけ防災訓練を行うことで、一定の意識啓発につなげることができた。 ・訓練の結果、○○や○○といった課題を新たに見つけることができた。		数値等	—	
参加者からの感想や意見	消防、行政依存から住民主体の訓練に移行しつつあるのでは、という声も聞かれた。				
評価 良かった点・引き継ぐこと	・毎年、自己満足ながらある程度の手応えはある。 ・参加人数が増加した。 ・今までの講演を聞くだけの訓練に対する不評の反省から、参加型の訓練に変更したことでマンネリ化から脱却することができた。				
評価 残念だった点・改善点	・毎年自治会長等が交代しており、過去に達成したつもりの課題が達成できなくなっている。 ・もっと実践にそった方法もあったのではと反省している。伝統ある事業でもあるし、先人の方々のやり方を変化させることは難しい。				
人材の発掘	今後、参加や協力の可能性がある人材名を書いてください。	○○　○さん(△△町内会)、◇◇　◇◇さん(☆☆団体)			
申し送り事項 次回への提案	上記のことを踏まえて、担当するメンバーの一部刷新もカンフル剤になるかと。ただ、根本的にやり方を変えるのではなく、新風を吹き込んでくれる担当メンバーの参加が欲しい。一部の担当者だけへの負担増では変革は難しいかと。				

※記入できるデータがない箇所は横線(ー)を入れてください。

やってみました！

坂中まち協では、部会ごとに活動内容を洗い出して自己評価する「活動実績評価シート」を作成。活動を改めて見直し、全役員で共有することでお互いの活動への理解が深まりました。意見交換では改善の提案や励ましが多く出され、活動を統合して効率化を図るアイデアなども出されました。

事業内容が一目でわかるので、新任への引き継ぎ書としても活用できます。

ステップ 3 住民の思いやニーズを探る 住民アンケートの実施

「住民アンケート」は、さまざまな理由で日頃の思いを伝えられない方々の意見を吸い上げることができる方法です。地域の明るい未来へ向けた取り組みを検討するため、幅広い世代を対象に行いましょう。数字や数量で結果を得られるので、課題解決に取り組む優先順位をつける参考になり、活動を見直す裏付けになります。

集計結果・分析は共有することが大切です。住民の関心が高まり、課題を自分ごとに考えるきっかけになります。

地域の声を確実にとらえる住民アンケートを行うには？

●目的と結果の生かし方を明確にし、組織内で共通認識を持つ

アンケートの実施が目的とならないよう、「何のために行うか」「どう生かすか」をまず明確にします。自治会・町内会の協力も必要で、時間と労力もかかります。勉強会などで目的や生かし方、作業内容などしっかりと共有しましょう。

小合地区コミュニティ協議会　まちづくりアンケート

回答は10分程度で終了します

Q1. あなたの年齢・性別・住まいについてあてはまるものに○を付けてください。
Q1-1 1.男性　2.女性
Q1-2 1. 10代　2. 20代　3. 30代　4. 40代　5. 50代　6. 60代　7. 70代　8. 80代～
Q1-3 1.東部（大淵・東笹・小戸上越・小戸下越）
2.南部（小合南・南ノ木・浦田野・川根）
3.西部（臨戸・子成場・四ツ興野・高野俣・大阪・野方）

Q2. あなたのお住居について、あてはまるものを全て○を付けてください。
1.農家（主に花卉・花木）　2. 農家（主に米穀）　3. 農家（主に青果）
4.林業　5. 漁業　6. 自営業　7. 会社員　8. 役家主婦（夫）
9.パート・アルバイト　10. 公務員・団体職員　11. 中学生
12. 高校生・高専生　13. 大学生・短大生・専門学生
14. 無職　15. その他（　　）

Q3. 日常おもな交通手段はなにですか？あてはまるもの1つに○を付けてください。
Q3-1 1.自転車　2. バイク（原付を含む）　3. 電車　4. バス　5. タクシー
6.自転車　7. 徒歩　8. その他（　　）
Q3-2 あなたは自動車運転免許を保有していますか？
1.免許を持っている　2.免許を持っていない

Q4. あなたはインターネットや電子メールを使っていますか？
Q4-1 1.はい　2.いいえ
▲「はい」を選んだ方のみお答えください。
Q4-2 主な使用機器はなにですか？（あてはまるものの全てに○を付けてください）
1.パソコン　2.スマートフォン・タブレット　3.ゲーム機
4.スマートフォン以外の携帯電話
5.テレビ　6.その他（　　）
Q4-3 SNS（Twitter/Facebook/LINE/Instagramなど）を利用していますか？
1.はい　2.いいえ

●質問は答えやすいように設定する

このアンケートは住民個別の要望を聞くのではなく、幅広い世代の意識や認識を「見える化」するためのものです。質問はどの年齢層でも答えられる内容にします。数値化できる選択肢形式を中心とし、自由記入は最小限にします。

●各世代の声を把握するため世帯ではなく個人が回答する

世帯に１通だと、世帯主など年配者が回答する傾向があり、高齢世代に寄った結果になりがちです。少数派の若い世代の声も反映させるため、中学生以上を対象に１人１通で回答してもらいます。１通ずつ封筒に入れ、プライバシーに配慮しましょう。

●今後の活動に生かすため、回収率を高める

今後の活動に生かすため幅広い声を集めるには、回収率を高めることが重要です。そのため、調査票の配布・回収は手渡しを基本としています。自治会・町内会に協力してもらい、確実に回答を得られるようにしましょう。

小合コミ協と坂中まち協では住民アンケートを実施。詳細は新潟市ホームページで紹介しています。

詳細はこちらから▶

[新潟市ホームページ] https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/shimin/community/model_present.html

坂中まち協は大規模です。全住民にアンケートを取ることは難しいと判断し、坂井輪地区内の３つの小学校区のバランスを考慮して対象とする自治会を絞り、約3,000人の住民と、坂井輪中学校２年生全員に依頼しました。

データ入力説明会には約20人が参加（写真）。エクセルを使った入力方法を学び、手分けして入力作業を行いました。結果は活動実績評価シートとリンクさせ、今後の活動へ生かしていきます。